

談 叢

「地球」の第二年から何か餘り屑の癡らぬ一欄を設けて見たいといふ希望が同人間に起つた。輒より始よで自分が先づ試に此の談叢欄に短篇の隨筆を載せることにした。讀者諸君から續々面白い短篇を寄せて誌上の茶話會を開く氣分を横溢させたい。(如舟)

支那小説の地理

如舟 老人

「如舟」といふ號の出典は何かと屢人から聞かれ、或る友人から「繫がざる舟の如し」の意味かと切り込まれたこともある。此の間は如何にも御尤で、京都在住十八年間に昨臘塔之段毘沙門町に引越すまでに五回、即ち平均三年に一度づつ移動したのは不繫舟といつてよいかも知れぬしかし自分の「如舟」といふのは「小如舟書屋」を短縮したもので、嘗て三疊敷の書齋に書物を詰めて机を置いた時に、以前に飯田町で紅葉山人の近處に住み、時々山人を尋ねた頃に山人の書

齋が三疊敷で、その庭先に絲瓜の長い奴がぶら下つてゐた光景を想ひ出し、又た蘇東坡が戲に弟の子由に贈つた詩に「宛丘先生長如丘、宛丘書院小如舟」とあるのに因んで、戲に「小如舟書屋主人」と號し、「小」を小川にきかせて見た譯である。

舊臘の轉居によつて偶然關中に葬られてゐた支那小説が明るみに出て來て、自分の見た支那の風景が小説中の記載を聯想せしめ、旅行の興味をそゝつた經驗があつたから見出しの如き題をつけて筆を弄する氣になつた。

支那文學に現はれた地理を問題として通觀すれば、何人にも氣のつくのは歷代詩人の名句に表現された風景で、その中の最も古いのは「彼の淇の隈を瞻れば、綠竹猗々たり」といふ詩經の文句の如く、河南省北部の殷墟に今は全く竹の跡を絶つてゐるので、注釋家を惱ますものまでもある。李白杜甫王維等の唐代大家をはじめ無數の詩人の歌つた景色には地方的色彩を發揮したものが頗る多く、各省の通志、府志等の乾

燥無味な記載の末に文藝の卷あるものは恰かも沙漠で泉地に到着した如き快感を與へる。その中には所謂有聲の畫たる特色を具備し、隋唐間に洛陽と揚州との間の南北交通の幹線であつて今の開封府即ち汴京に意義を與へた汴河沿線の交通状態を想像せしめるものなどが看出される元清の作者中の車駕に扈隨して上都（今の多倫諾爾の西北）や熱河等に旅行したものには、塞外の風景を叙述して精彩を放ち、現場を旅行した後で讀めばその風景が歷々と記憶を新たにせしめる。

然れども此の如きものよりも一層地理的に面白いのは小説で、我々の耳目に膾炙する三國志水滸傳西遊記紅樓夢の四書だけに就いてその價值を批判すれば、三國志には現代支那民族の政治的生活をそのまゝ描寫し、紅樓夢には大官の家庭と大都市の生活が窺はれ、西遊記には支那民族の宗教上の信仰が道佛混淆し恰かも日本の本地垂迹の思想と同じ趣を示し、北道南佛といふ標語が必しも嚴密な意義に行はれてゐぬこと

が明かに見えるのである。而して水滸傳の一書に至つては、支那の田舎と都邑とに論なく社會生活の全幅を蔽ふもので、殊に專制政治の極端な壓迫と市井の所謂好漢の之に對する反抗とを描寫して、現に目撃する千態萬様の下層生活を躍如たらしめ、三國志などよりも深刻に暗黒面を剔抉し、支那民族の如く三千餘年に亙り連續した文化生活が爛熟の極度に達したものの眞の世相を理解せしめる大文字である。之を東洋古代の文學中に求めて司馬遷の史記游俠傳以外に似た精神で書かれたものがなく、西洋の小説中でも專制政治の覆滅した佛國革命時代を描いたユゴーの「憐れな人々」Les Misérables 以外には比類すべきものがない。故に水滸傳は支那民族を理解せんとするものに三千餘年の歴史を讀む以上の價值がある譯で、昨春歐米の人心を聳動して今尚ほ記憶に新たな津浦線臨城事件の如きは尋常茶飯の遣り方を稍大仕掛に行つたまでで特に不可解な性質の出來事でないで容易に認められる。

ユゴーの「憐れな人々」の巻頭辭には

法律と習慣の行はれる爲めに文明の面前に
人爲的に地獄を設けて神聖なるべき宿命を
人生の必要から紛糾せしむる社會的判決が
現在する間は、恒産なき爲めの男子の墮落、
饑渴の爲めの婦人の淪落、闇夜のための兒
童の萎縮の現代三問題が解決されぬ間は：
……此の性質の書物も亦た無用でなからう
と喝破し、*le proletariat*「無恒産」又は「布衣」と
いふ語を人口に膾炙せしめた。彼はまた神様の
やうなミリエル長老を劈頭に出して天國への途
を開いた。

水滸傳の作者施耐庵は何處までも支那流に

紛々五代亂離間、一旦雲開復見天、草木百
年新雨露、車書萬里舊江山、尋常巷陌陳羅
續、幾處樓臺奏管絃、天下太平無事日、鶯
花無限日高眠、（但し皇朝文鑑には猶管絃、取次園林
亦、人老春未老、害に作り、耐庵が
少し改竄した）

といふ邵康節の詠史十六首中の最後「觀盛化」の
第一首を巻頭第一回の首に掲げて天下太平の四

字を標榜し、第七十五回の尾にも此の四字で結
び、儒家一流の理想的政治たる王道を高調した
ものである。またその一百八人の豪傑を娑婆世
界に出すに當つて洪大尉が龍虎山張天師を招聘
に行つて偶然伏魔殿の石蓋を發掘して三十六員
の天岡星七十二座の地殺星を飛び散らす話を楔
子とした點は、西遊記花果山の石猴紅樓夢の女
娼の三萬六千五百塊の石を用ゐた残りの一塊の
石に筆を起したのに對して祖師となり、曲亭馬
琴をして八犬傳の八顆の玉を着想せしめたもの
で道教の迷信がその根底に在るのである。

水滸傳中の人物が活動する範圍は頗る廣く西
北は山西の五臺東北は滄州東南は江西廣信府の
龍虎山までに跨り、北宋の首府東京（汴京開封
府）北京（大名府）等が屢記載されてゐる。而し
てその割據した梁山泊は今の山東の大運河に接
した處でまた張本人宋江の居た鄆城縣は曹州に
屬し、此の邊一帶は今も盜賊の多い處である。

盜賊も亦た一定の地方的分布を成すもので、
日本では海岸の或る隱蔽された處が海賊の根據

地となることを前號に述べたが、支那海の廣東廣西沿岸の如き、地中海の亞弗利加側の如き、何れもその跳梁を見るもので、支那では宗教の北道南佛、交通の南船北馬の如く、此の南海の海賊と北方の馬賊とが對比を成してゐる。また各省の交界地は直ちに隣省に逃げ込む便利ある爲めに常に盜賊土匪の樂天地となり易く、河南省に接する曹州や江蘇省に接する沂州府臨城などは山東省治の濟南から遠いので討伐を受けぬ同じく沂州と交界の江蘇省の北邊にも所謂鹽匪なるものがある。

水滸傳には何時も到る處に盜賊が出て來るが北方の山寨を構へたものと、南方の長江沿岸の江賊とでも呼ぶべきものがある。地方的特色が明白に區別されてゐる。

此の書の作者が地圖を參考せず、また方々を旅行して現場の風景を目撃せずに筆を執つたと見えて、梁山泊から薊州(北京近傍)の公孫勝を迎ひに行く戴宗が沂州沂水縣を通つて李逵の噂を聞く話などがある。羅貫中の方では薊州を改

めて蘇州としてゐるのは此の誤謬に注意したのであらう。故に一々嚴密に事件の經過を地理的に批判すれば全く無價値のものになつて仕舞ふのは勿論である。然れども個々の記載中の自然の風景や都邑村落の生活等は頗る面白く表現されてゐる。特に田舎の村落の光景は支那の聚落の狀態を知るに足るもので、地方の保甲によつて警察制度の缺陷が補はれてゐる現狀が之によつて窺はれる。

近頃英國でデッケンスの小説に見えた現場を踏査した熱心な研究者があつたやうであつて、我々は水滸傳の場合にも我が同好の人士の手で試みられたといふが、我々自身は此の如き試みをなし能はぬのみならず、又た之を試することは今述べた理由で徒勞に歸すると思ふ。自分の氣付いた點だけを擧げて「水滸傳の地理」として次號以下に紹介する積である。